

## 読売新聞 きょう（2月5日）のイチ押し

### 1面・社会面 森会長が発言撤回 五輪組織委

東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の森喜朗会長が4日、東京都内で記者会見し、女性に対する自身の前日の発言について謝罪した上で撤回しました。国内外から批判が噴出し、大会への悪影響まで懸念する声が出ています。

- ★ 森会長は、主なスポーツ団体で女性理事の比率を40%以上とするスポーツ庁の目標に関連して、「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」や「女性は競争意識が強い。1人が手を挙げると、自分も言わなきゃいけないと思うのだろう」などと語っていました。
- ★ 4日は、「(男女平等をうたう)五輪・パラリンピックの精神に反する不適切な表現だった。深く反省している」と謝罪しました。進退については「辞任する考えはない」と会長職にとどまる意向を示しています。

### 社会面 大阪市 規模に応じて協力金

大阪市の松井一郎市長は、新型コロナウイルス対策として時短営業をする飲食店に支給される協力金について、店舗面積や売り上げに応じて独自に上乘せする仕組みを検討すると表明しました。緊急事態宣言が解除されてからも、医療体制が逼迫した状況なら時短要請を継続する考えで、その場合に協力金の上乘せを行いたいとしています。

現在の協力金は、事業規模に関係なく「一律1日6万円」となっていて、場所による家賃などの違いが考慮されていないことから、「不公平」との不満が出ているためです。具体的な仕組みは、今後決めるようです。

#### 他紙と比べて

新型コロナウイルス対策の切り札となるワクチンについて、「基礎からわかる」シリーズが掲載されています。ワクチンはどんなもの？ 接種の順番や日程は？ 打つのは義務なのか？ こうした基本的な知識を1ページにまとめ、図表や写真も交えて、分かりやすく解説しています。